

平成21年8月 12日

南砺市市長 田中 幹夫殿

要 望 書

日頃南砺市文化財の保護並びに文化の保存発展にご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、南砺市福光地内（荒町）に史跡福光城址がありますが、この史跡は、寿永年間1183年砺波山（倶利伽羅山）の合戦に木曾義仲に加勢し源氏の勝利に導いた当地の豪族石黒太郎光弘が築城した城であります。現在は、石垣と、江戸末期に建設された小亭栖霞園が南砺市の指定文化財として現在に至っておりますが、史跡福光城の表札となる「福光城址」の石碑が建立されておられません。

石黒太郎光弘が木曾義仲に加勢していなければ日本の歴史の一部も変わっていたかの知れない人物の築城した城跡でございます。今後、当城跡は地域振興、観光振興の発展促進に寄与する大事な位置にある当城跡に石碑の建立が不可欠との地域住民の要望で有りますので、格段の高配を賜りますようお願いいたします。

添付書類

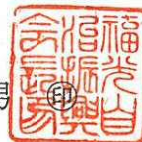
南砺市指定文化財 福光城址・栖霞園の概略

設計図及び見積書

建立位置の写真

福光地区自治振興会長

蟹野 正男



福光観光協会会長

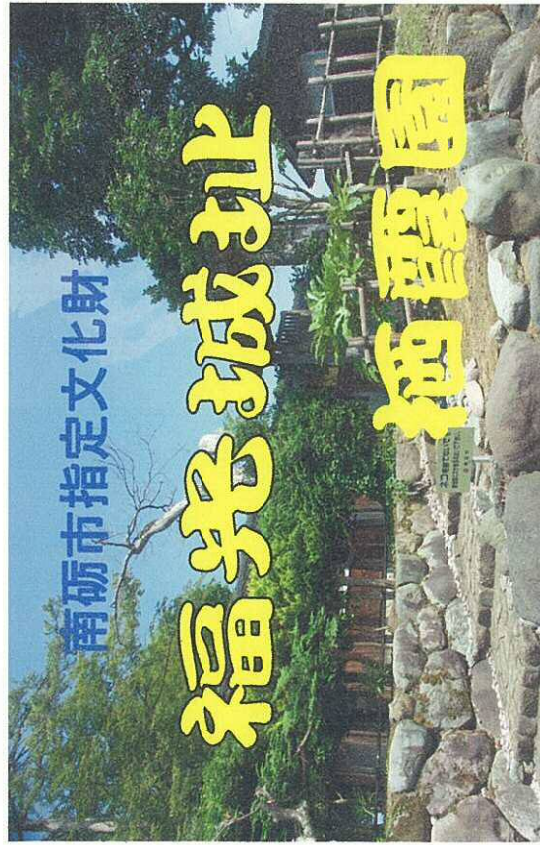
川合 声一



南砺市議会議員

水口 秀治



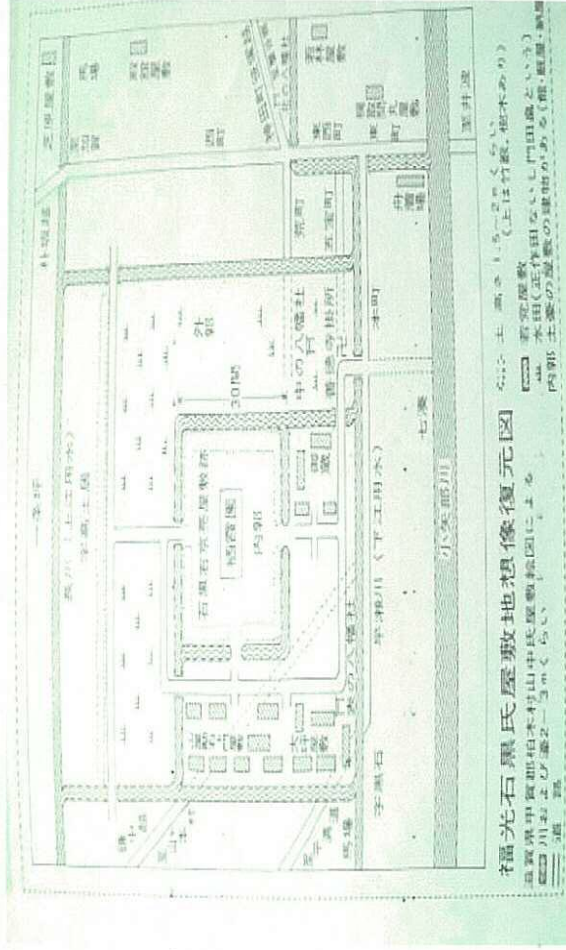


福光城は、寿永年間 1183 年砺波山（倶利伽羅山）の合戦に、木曾義仲に
加勢し源氏の勝利に導いた豪族石黒太郎光弘が築城し、以後 300 年間にわ
たり栄、領地は砺波郡の大半に亘った。

城の壕は東西 27 間、南北 16 間あったと伝えられている。

文明 13 年石黒右近義光の代に、加賀の富樫政親殿の依頼にて心ならず
も一向宗征伐に井波の瑞泉寺焼打ちに出兵、戦いは山田川を挟んで石黒勢
（先陣、野村五郎・石黒次郎左右エ門・二陣、医王山惣海寺衆徒、本陣、
大将石黒右近光義）2,300 余人、瑞泉寺勢（五箇山勢・近在百姓・山田谷・
般若野郷・射水郡百姓・坊主等）5,000 余人が相対した。戦況は、当初福光勢
が優勢であったが、かつての分家で桑山城主坊坂四郎左エ門が、加賀涌谷の
衆徒 2,000 余人を伴い二手に分かれて、当時医王山にあった 48 カ寺全焼
き払い福光城に攻め入り城下に火を掛け、福光城は落城。石黒勢は、瑞泉寺
軍と加賀に挟み込まれ、無念の光義主従 36 名となり、安居寺へと退却。し
かし再び川上の坊主、百姓衆に攻撃され主従は 16 名となり、今はこれまで
と各自害の道を選びここに 300 年の繁栄を見た福光城主石黒家は滅亡

しその後福光城は、廃墟と化しましたが、江戸時代後期寛政年間に入り福光
の文化人石崎五柳、医師の有沢東海らの手により福光城跡に小亭を建てて、
栖霞園（棲霞園）と命名した。



五宝町知源寺前に残る福光城跡の石垣

栖霞園



寛政の創建と加賀文化交流の拠点

福光城は、1183年の倶利伽羅山の戦いに地元兵士を率いて参戦し源氏を勝利に導いた豪族石黒太郎光弘が築城。以後、300年にわたり栄えたが、文明13年(1481)一向宗との戦いで焼討ちに遭い落城、以来荒廃していた。

江戸時代後期寛政年間(1789~1800)福光の文化人石崎五柳、医師有沢東海らが風雅人交遊の場として、福光城跡に小亭を建て、栖霞園と命名した。

天保の大飢饉は、福光村の風流人にも影響を及ぼし、栖霞園は荒廃するに至ったが、慶応年間前村普言の甥の前村謹堂・松村松宇らが、加賀藩奥村家の御茶堂で裏千家北陸三哲の一人桑原宗宜の指導・監督の下、再建されたのが茶室栖霞園である。

地元の俳人・詩人・書家・画家・陶芸家など文化人の拠点となり、全国から加賀百万石の文化の中心金沢を訪れた文化人も、福光まで足を伸ばし栖霞園での風雅を楽しみ、栖霞園を中心とした福光文化の花が開いた。

史跡指定と室内

昭和34年(1959)、福光町は加賀藩時代の福光文化を象徴する遺構として栖霞園を史跡として指定、南砺市に移行後も市指定として保存管理している。

数奇屋造りの栖霞園内部は、広間七畳向切本勝手、踏込床の席と三畳の次の間、二畳中板の小間、三畳の水屋に雪隠が付く。腰障子の入る部屋の外側の敷居の下の壁止めに舟板が使用されている。周囲には六尺の石縁がめぐられ、ガラス戸で保護されている。

床は一枚板の踏込床、赤松の皮付丸太の床柱に袖壁を付し、下部を吹き抜けとしている。天井は、野根板の竿縁天井で簡素な侘びを感じられる。

二畳中板の小間は野根板の竿園天井に傾斜を施し草庵風としている。

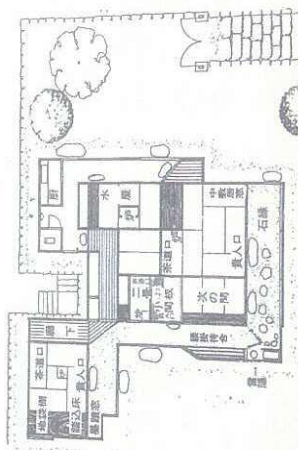
三畳の水屋には、側板と向板を挿入し、長炉を備えているなど、随所に工事の監督に当たった、茶匠桑原宗宜の好みが見え、丁寧に造られた貴重な遺構とされている。

大正期に入ってから離れは、四畳半本勝手の席が建て加えられた。

離れは、六尺の一枚板の踏込床の中央に湾曲の孟宗竹の床柱を配置し袖壁を付している。右側に地袋を設け脇床としている。



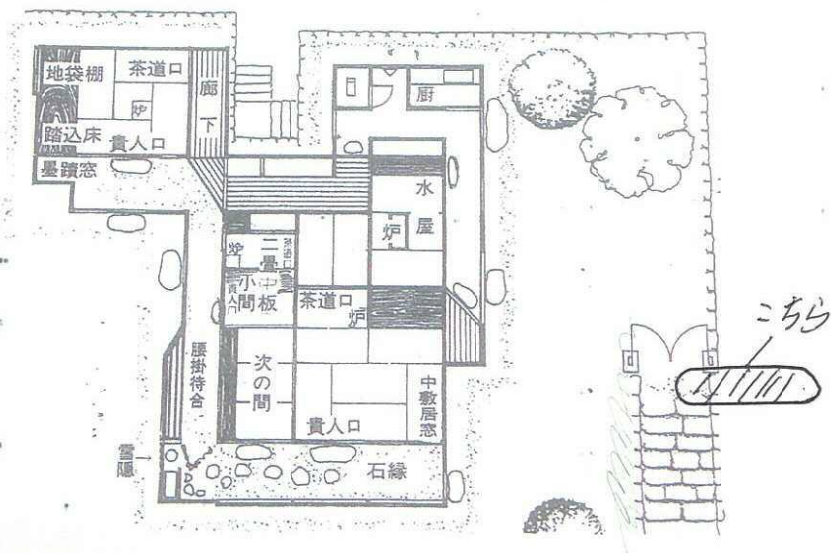
栖霞園取組図



建立場所



栖霞園間取図



御 見 積 書

(見積第

号)

21 年 6 月 日

No.

福光城跡 掘削園様

貴 年 月 日付第 号御照会の件

下記のとおり御見積申し上げます

受渡期日 年 月 日

受渡場所

取引方法

有効期限

西村造 55-185

税込合計金額

364000

税率

消費税額等

%

摘

要

数 量

単 価

金 額 (税 抜 ・ 税 込)

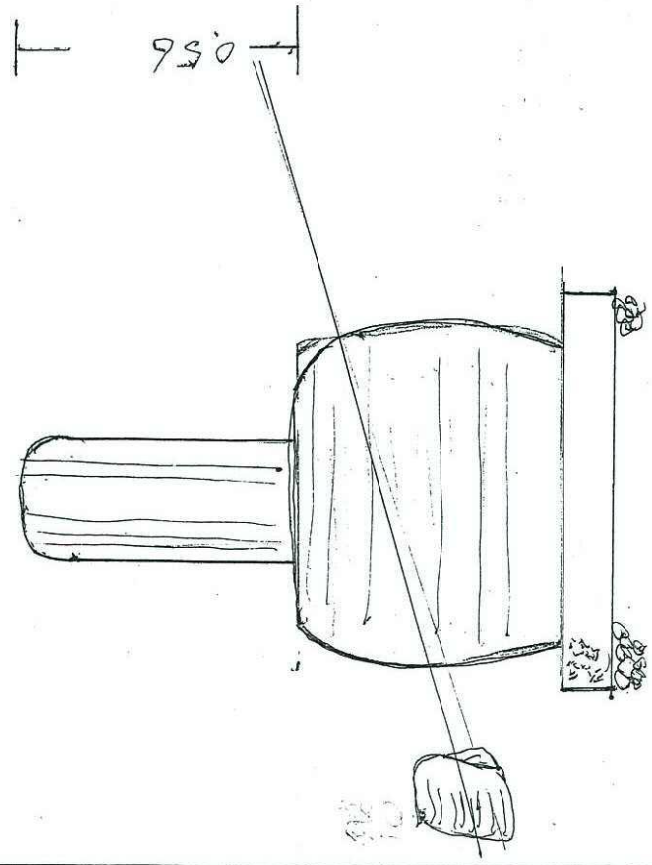
備 考

1	石と 砂	石 32			140000	
2	生コン、バラス、人夫、ユニック				224000	
3	タマラマ、資材搬					
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
合 計					364000	

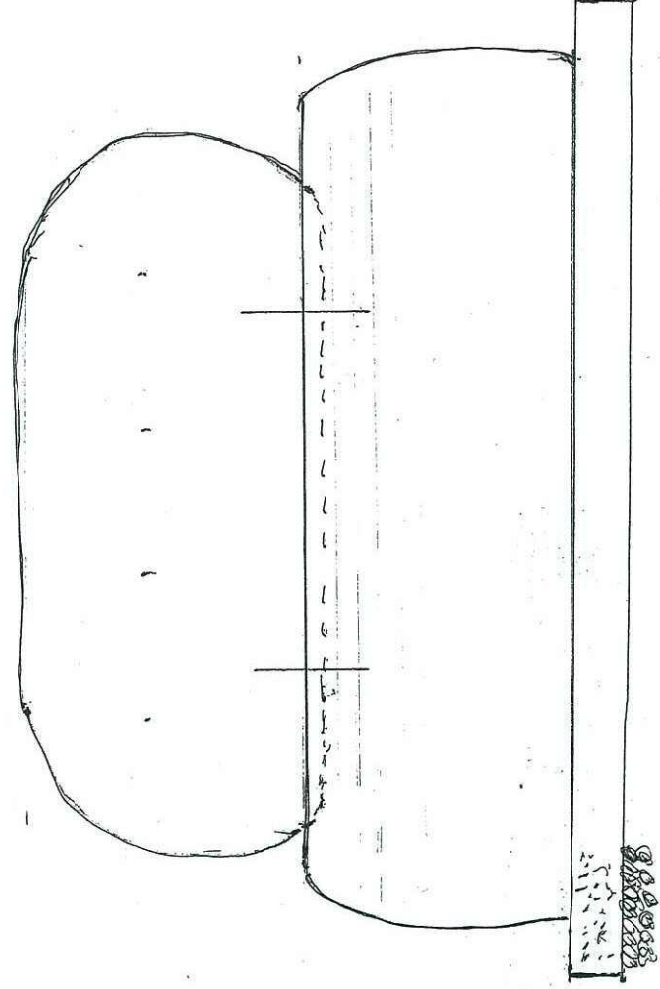
福光城迹 櫓霞園

0.25
A

1.05



0.60



1.40

0.60~0.80
↓
0.60

小泉宮跡

55.1815
55.1815